

中国文化学会略史

承前「中国文学会（旧大塚漢文学会）略史」（《中国文学—研究と教育—》第六〇号、二〇〇二、所収）

二〇〇一年（平成十三年）

六月二三日 平成十三年度中国文学会大会（於大妻女子大学）。村上之伸「陳虬の温州語について」、松村茂樹「呉昌碩の石鼓文書写について」、谷口匡「韓愈の『進学解』について」、加藤敏「元結の初期作品について」、松尾善弘「近体詩の平仄と造句法」、小谷一郎「三德里での青春—創造社出版部と上海通信図書館—」。シンポジウム「漢文教育の今—変革は可能か—」、細谷美代子、安立典世、高岡正幸、町田静隆。平成十三、十四年度会長高橋均。

九月二二日 例会（於筑波大学学校教育部）。関浩志「一九六二年改作上演の歌劇『白毛女』について」、瀬尾邦雄「庄内藩学における徂徠学の受容について」。

一二月八日 例会（於筑波大学学校教育部）。大橋賢一「李善注『文選』と顔師古注『漢書』の関係について」、内山直樹「漢代の書物に見られる篇次の保存方法」。

二〇〇二年（平成十四年）

三月九日 例会（於筑波大学学校教育部）。高橋未来「唐詩に見える『貶謫』の諸相」、大上正美「西順蔵『嵇康論』をめぐる問題」。

五月一二日 例会（於筑波大学学校教育部）。速水愛子「温庭筠の律詩における対句について」、安藤信廣「阮籍『詠懷詩』小考」。

六月二九日 《中国文学—研究と教育—》第六〇号発行。七十周年記念号。編輯者、編輯委員会 代表大上正美（以下六一号まで同じ）。印刷所、株式会社共立印刷所（以下同じ）。中国文学会（旧大塚漢文学会）略史「『中国文化』総目次（五〇号—五九号）」掲載される。

同日 平成十四年度中国文学会大会（於国士舘大学）。西村論「李白詩の『孤雲』と『衆鳥』について」、加固理一郎「李商隱の無題詩について」、高橋稔「中国東北の快板に現れた漢語の俗的表現」、菅野智明「有正書局の法書出版について」、中村俊也「現代新儒家の主要觀念—『專念』と『非専門』について—」、笠井幸博「高校生は李白と杜甫のどちらが好きか—高校生による李杜優劣論—」、松尾善弘「二〇〇二年度センター試験漢文問題の点検と批正」。シンポジウム「中国文化の課題と研究」、安藤

信廣、堀池信夫、松村茂樹。

九月二八日 例会（於筑波大学学校教育部）。吉野敏武「装幀と料紙」。

十二月一四日 例会（於筑波大学学校教育部）。山口若菜「蘇軾における飲酒と詩作について」、樋口泰裕「王籍」「蟬噪林逾靜、鳥鳴山更幽」の評価をめぐって」。

二〇〇三年（平成十五年）

三月九日 例会（於筑波大学学校教育部）。望月眞澄「洪武正韻」依拠方言は温州方言なのである」。

五月一〇日 例会（於筑波大学学校教育部）。滝愛美「漢文教材としての『論語』」、稀代麻也子「袁燦「妙徳先生伝」と陶淵明「五柳先生伝」——沈約『宋書』の文脈における意味の変容——」。

六月二八日 〈中国文化——研究と教育——第六一号発行。

同日 平成十五年度中国化学会大会（於文教大学）。舟部淑子「『中原音韻』「作詞十法」の評語について」、小林佳迪「文学作品の具現化と「桃花源記」に基づく文化景観」、蔣垂東「福建浦城方言の程度表現について」、高橋由利子「ヴァーチャルラーニングシステムとマルチランゲージ教育」、菅本大二「天人之分と天命」、青木五郎「司馬遷の「悲しみ」。シンポジウム「『桃花源記』を読みなお

す——いくつかのキーワードを軸に——」、向嶋成美、小出貫暎、門脇廣文、坂口三樹。平成十五、十六年度会長向嶋成美。

十一月八日 例会（於筑波大学学校教育部）。上田武「陶淵明の勸農詩と農家思想」。

二〇〇四年（平成十六年）

一月三一日 例会（於筑波大学学校教育部）。白井啓介「映画がモダンになるまで——上海都市文化と中国電影の黎明期——」。

三月七日 例会（於筑波大学学校教育部）。齋藤聡「王維における自然詠法の一考察」、阿川修三「最近の中国図書館事情——北京図書館、中国国家図書館を中心に——」。

五月八日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。太田恵理子「いわゆる verb-copying 文について」、菅野智明「梁啓超の北碑論」。

六月二六日 〈中国文化——研究と教育——第六二号発行。編輯者、編輯委員会 代表安藤信廣（以下六三号まで同じ）。

同日 平成十六年度中国化学会大会（於上智大学）。貝田章子「『田舎莊子』と成玄英」、小林佳迪「杜牧の「清明」詩に因む「杏花村」の再形成」、浅野雅樹「現代中国語における動量詞「度」について」、渡邊大「顧炎

武にとつての古音研究—その動機・意義づけをめぐつて—、谷口匡「韓愈の『鱷魚文』について」、沼口勝「陶淵明と南朝民歌—『歸去來兮辭』の題名との関連を中心に—」、シンポジウム「漢学における日本近代への経路—自己像の定立、他者像の形成—」、白井啓介、大塚秀明、高橋均、佐藤一樹。

九月二五日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。館けさみ「九〇年代中国映画状況を振り返る—「紀実」と「若手」監督作品を中心にして—」、佐々木勲人「東南方言における受益から処置への文法化」。

一二月四日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。鈴木直子「民国元年新劇同士の演劇活動—春柳劇場に至るまで—」、安藤好恵「語氣助詞の『啊』と『吧』と」。

二〇〇五年（平成十七年）

三月五日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。小松建男「『三国志演義』をどのように研究したらよいのか?」、劉勲寧「蔚、为什么念『yù』?」。

六月二五日 〈中国文化—研究と教育—〉第六三号発行。

同日 平成十七年度中国化学会大会（於千葉大学）。山口若菜「蘇軾の閑適の詩について」、貝田章子「成玄英の非物と無物」、北村良和「大上氏『嵇康論』に於ける政

治と文学の関係を巡つて」、坂口三樹「『人虎伝』本文の生成について」、松村茂樹「吳昌碩と周夢坡」、高橋均「藤原頼長と経書研究」、シンポジウム「東アジア（日本・中国・台湾・韓国）の漢文（古典）教材の比較」、青木五郎、渡辺雅之、木村淳、大橋賢一、辛賢。平成十七、十八年度会長向嶋成美。

九月二四日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。佐藤一樹「久米邦武と重野安繹」、高橋大輔「曹植遊仙系作品の考察」。

一二月三日 例会（於筑波大学附属中学校）。石毛慎一「近代の漢文科存廃論」。

二〇〇六年（平成十八年）

三月四日 例会（於筑波大学人文社会学系棟）。有馬みち「王勃『春思賦』考」、今井裕一「皇侃の科段説と学一篇題下疏を中心として」。

六月二四日 〈中国文化—研究と教育—〉第六四号発行。編輯者、編輯委員会 代表加藤敏（以下六七号まで同じ）。

同日 平成十八年度中国化学会大会（於函館市勤労者総合福祉センター）。孫險峰「崔浩の天人思想」、松崎哲之「萬斯大の祭天思想について」、村上之伸「百年前の浙南方言語彙集『甌諺略』」、小嶋明紀子「『皐霖集』所収

の楚辞系作品をめぐる、鳴海雅哉「唐・韋莊の『戦乱』を詠じた詩について」、谷口真由実「杜甫『秦州雜詩二十首』小考」、谷口匡「韓愈の『太学生何蕃伝』について」、

加固理一郎「李商隱の『錦瑟』について」、白井啓介「上海一九二〇年代電解放映情況―映画館の隆盛とその上映映画を中心に―」。講演「江戸における詩人波響」、高木重俊。

九月二三日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。白井啓介「バリバリ北京の三七二日」。

一二月九日 例会（於筑波大学附属中学校会議室）。北島大悟「南京・丹陽の六朝陵墓石刻とその現状（留学体験記）」、梅川純代「中国・日本における宗教的性愛技法の比較考察」。

二〇〇七（平成十九年）

三月四日 例会（於筑波大学附属中学校会議室）。柴田知津子「『詩経』に見える植物の採取動詞について」。

六月三〇日 〈中国文化―研究と教育―〉第六五号発行。

同日 平成十九年度中国文化学会大会（於三松学舎大学）。樋口泰裕「隋煬帝詩試論」、高橋未来「杜牧の『孫子注』について」、舟部淑子「中日翻訳の誤訳例と問題点」、安藤好恵「主従複文中の仮定について」、小嶋明紀子「譬さを詠う賦をめぐる」、渡邊義浩「鄭玄と王肅」、高

橋稔「『日本昔話大成』の見直しの必要性に関する中国文学研究の立場からの提言」。講演「西洋古典の初期刊本をめぐる」、細井敦子。平成十九、二十年度会長大上正美。

九月二四日 例会（於筑波大学人文社会学系棟）。鎌田崇嗣「梁簡文帝の詠物詩について」、井川義次「ヨーロッパにおける朱子学の受容」。

一二月八日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。大塚千晶「唐代の女流詩人魚玄機の詩における感情の表出について」、安藤信廣「侯景の乱と庾信―『哀江南賦』論を基礎として―」。

二〇〇八年（平成二十年）

三月八日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。荒井禮「王漁洋の揚州赴任以前の樂府詩」、松村茂樹「吳昌碩と水野疎梅」。

四月二六日 例会（於三松学舎大学九段キャンパス）。沼口勝「阮籍の四言（詠懷詩）をめぐる」。

六月二八日 〈中国文化―研究と教育―〉第六六号発行。

同日 平成二十年度中国文化学会大会（於横浜国立大学）。清地ゆき子「張資平作品にみられる恋愛用語」、和久希「『文心雕龍』の言語思想―『隱』義考序説―」、齋藤聡「唐代遊俠詩の変質―王維『少年行』をめぐる―」、

有馬みち「王勃『平台秘略論』に關する一考察」、北島大悟「沈約の隱逸思想と文学」、大橋賢一「李白『黃鶴樓送孟浩然之広陵』における『煙花』について」、柳川順子「李陵・蘇武詩の成立の場」、門脇廣文「二つの『桃花源記』から読み取れるもの」、大上正美「漱石詩の仮構（初探）——修善寺仰臥十二首をめぐる一側面——」。講演「金沢八景の歴史と変遷」、永井晋。

一〇月五日 例会（於青山学院大学青山キャンパス）。加藤敏「元結『春陵行』再論——『漫叟』の視座——」、大久保隆郎「華夷思想と識緯と浮屠」。

一二月六日 例会（於青山学院大学青山キャンパス）。佐藤一樹「明治中期の新式貸本屋と漢籍目録」、渡邊義浩「『山公啓事』における貴族の自律性」。

二〇〇九年（平成二十一年）

三月七日 例会（於二松学舎大学九段キャンパス）。樋口靖「台湾語の訓読字について」、高橋均「注釈中の『按（案）』という語から見えること」。

五月二日 例会（於二松学舎大学九段キャンパス）。松本肇「靈感の詩学」。古典籍展示（高橋均会員蔵）を同時開催（以下の例会も同じ。展示内容については本誌各号彙報を参照）。

六月二七日 〈中国文化——研究と教育——〉第六七号発行。

同日 平成二十一年度中国文学会大会（於大東文化大学）。八木一絵「形式と内容——書における概念の比較——」、荒井禮「王漁洋の女性を詠ずる詩について」、松崎哲之「『家礼』の空間構造と葬式仏教」、村上之伸「漢語南方方言にみられる訓読みについて」、寺門日出男「『史記会注考証』と中井履軒」、鈴木直子「アメリカ留学時期の洪深」、白井啓介「美国影像——一九二〇年代上海におけるアメリカ——」。シンポジウム「人文系中国研究の将来——視点、枠組み、そして技法の継承と発展——」、佐藤進、高橋未来、松村茂樹。平成二十一、二十二年度会長大上正美。

一二月一二日 例会（於青山学院大学）。木村淳「検定制度初期における漢文教科書」、安藤信廣「聖武天皇宸翰『雜集』の二三の問題点について」。

二〇一〇年（平成二十二年）

三月六日 例会（於大妻女子大学）。下田章平「『二虞堂書画目』の資料的価値について」、高橋未来「杜牧と韓愈・柳宗元の兵戦観」。

五月一日 例会（於大妻女子大学）。堀池信夫「李賀『老子解』致」。

六月二六日 〈中国文化——研究と教育——〉第六八号発行。編輯者、編輯委員会 代表坂口三樹（以下同じ）。

同日 平成二十二年中国文学学会大会（於長野

県短期大学）。小嶋明紀子「冬を詠う賦をめぐって―雪と氷の描写をめぐって―」、鳴海雅哉「晩唐・韋莊における杜詩の影響」、渡邊大「顧炎武の考拠と経世―郡県をてがかりとして―」、高橋由利子「『説文解字』データベースソフトについて」、加固理一郎「李商隠の詩歌と道教との関係―内観存思のさまを描いた詩―」、安藤信廣「『イソップ物語』の日本と中国」、高橋均「『論語鄭玄注』は日本に将来されたか」。シンポジウム「近代における日中文化交流の再検討」、阿川修三、佐藤一樹、松村茂樹。

九月一八日 例会（於大妻女子大学）。松村茂樹「『桃花源記』の「問津」について」、大上正美「方法としての自虐―庾信「擬詠懷詩」再読―」。

一二月一一日 例会（於大妻女子大学）。高橋未来「杜牧の『注孫子』における『通典』の影響について」、加藤敏「元結の「新樂府」について」。

二〇一一年（平成二十三年）

三月五日 例会（於大妻女子大学）。大村和人「宴を、儀礼化―する―南朝梁・徐勉の「迎客曲」「送客曲」について―」、内山直樹「漢代の太史と『漢書』」。

五月七日 例会（於大妻女子大学）。尾川明穂「董其昌書

論における生熟説について」、白井啓介「中国電影初到考―映画はいつ中国に伝わったのか―」。

六月二五日 〈中国文化―研究と教育―〉第六九号発行。